



東京部会(第74回)

日時: 2015年4月16日(木) 19:00-21:30

場所: 日本大学経済学部本館2階中2会議室

参加者: [順不同・敬称略] 篠原(京都学園大学)、中川(日本大学)、加藤(慶応大学)、杉田(千葉習志野高)、大倉(千葉松戸向陽高)、塙(都立府中東高)、三枝(目黒区立東山中)、升野(筑波大附属中)、石山(東京証券取引所)、榊原(東京証券取引所)、中沖(清水書院)、鈴木(日本経済教育センター)、新井、以上13名。

【内容要旨】

(1) 夏の先生のための経済教室のプログラムの確認を行った。

主な内容は以下の通り。カッコ内は担当者(敬称略)。名は名古屋会場、大は大阪、東は東京会場。タイトルは仮題であり、講師陣と連絡を取り合い、最終的な詰めをすることになった。

講義:「中学教科書で教える経済的な見方、考え方(栗原)名・大・東」、「中学教科書で教える労働(野間)名・大・東」「教科書で教える企業情報の見方(榊原)名・大・東」「高校教科書で教える国民所得(小巻)名・大」「経済学から見る地方創生－震災復興を中心として－(中川)名・大・東」「歴史分野を経済で読み解く－金本位制・世界恐慌・ブロック経済(篠原)名・大・東」「経済学習におけるアクティブラーニングの進め方(大杉)東」「高校教科書の比較から企業の教え方を考える(梶ヶ谷)東」「大学入試問題を活用した経済学習の進め方(西村)東」「中学教科書で読み解く市場(篠原)東」「環境問題の教え方(猪瀬)東」。

実践報告:中学校－河原(名・大・東)、升野(名)、兼間(大)、加藤(東)、奥田(東)、三枝(東)の先生方。高校－塙(東)、山崎(東)の各先生。

講演:「教育と格差(大竹)東」。ほかに中学向け教室では「みんなで語ろう」各会場。

なお、今年の教室では、質問事項を事前に用意したり、講義のなかで質疑の時間をトピックごとに配置するなど、インタラクティブな講義スタイルを目指すことになった。

(2) 教材検討委員会(東京)が取り組んでいる新教材『たこ焼き屋ヤッキー』の検討を行った。

原案を作成した升野先生から説明ののち、討議では、元手と売り上げの図が十分では無いのではないか、利潤の源泉を考えるには、ヤッキー君が出資者、経営者、労働者と言う三つの顔を持っている個人事業者であることをもっとわかるようにした方がよいのでは等の意見が出された。今回の検討を経て、さらに教材化を進めることになった。

(3) テストの持ち寄り、升野先生が中三の公民的分野のものを持参されたが、検討する時間がなく、次回以降の課題となった。

(4) 教材の検討は二件。一つは、大倉先生の「減価償却の考え方」。これは、A君の朝食を例にして、費用を計算させるもので、初日バターロールだけ、二日目ジャムが入り、三日目お皿が入った時のそれぞれ一回分の費用を計算させながら、減価償却の考え方を教える内容である。質疑では、消費財で減価償却を教えること、現実的に減価償却は均等割りでおこなうことはないのではなどの質問がだされたが、考え方を教える教材としては利用できるのではということになった。また、本来複利で考えるべき内容であるが、単利で計算する設定にしてあり、複利計



算ができない生徒が多い実態を解消する方策が必要との問題が提起された。

もう一つは、塙先生の「時間の経済学—あなたはアリ？それともキリギリス？」。これは、加藤先生が作成した「幸せの人生を. “経済しよう”」を踏まえた教材である。検討では、設問の仕方を工夫することで現在割引価値の考え方を教える可能性をもつとなった。今後大阪部会での検討を経て、教材化を進めることになった。

(5) 年次大会の総括、今後に関しては時間がなく、取り上げることができなかったが、年次大会に関しては、次回はシンポジウム方式を取らず、経済教育のそもそも論を参加者と討議するスタイルを考えるという意向が篠原代表から表明された。 記録と文責:新井

次回開催予定:5月20日(水)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部予定。議題は、夏の教室の進め方、教材に関するディスカッション、定期テスト問題の検討ほか。